

稱讃

一三三二号

二〇二二年四月一日発行

花曇り
蔓延防止等重点措置が解除されましたが、ウクライナ情勢を思うと、なかなかこの解き放たれませんね。
「世の中、安穏なれ。仏法ひろまれ」

発行 浄土真宗本願寺派 稱讃 寺

〒二二一〇〇七五

東京都足立区一ツ家三丁目五番二〇号

TEL 〇三ー五二四二ー二〇二五

FAX 〇三ー五二四二ー二〇二六

H P shousanji.com

念仏申さんひとびとは、わが御身の料はおぼしめさずとも、朝家の御ため国民のために念仏を申しあはせたまひ候はば、めでたう候ふべし。往生を不定におぼしめさんひとは、まづわが身の往生をおぼしめして、御念仏候ふべし。わが身の往生一定とおぼしめさんひとは、仏の御恩のために御念仏ここにいて申して、世のなか安穏なれ、仏法ひろまれとおぼしめすべしとぞ、おぼえ候ふ。

『親鸞聖人御消息』



ロシアのウクライナ侵攻に、宗教（ロシア正教）が関わっていることを知り、残念でなりません。ロシア正教会のキリル総主教が、この侵攻に高らかな祝福を与えたと報じられました。ただ多国の正教会は、それを批判しています。

キリル総主教は、プーチンと盟友であり、この戦争を、同性愛（一つの多様性）への受容を中心に退廃的であると見て、西側諸国への対抗手段と考えているのと、と。そして、二人を結びつけるのは、「ルースキー・ミール（ロシア的世界）」というビジョンで一致しているとのこと。

「ルースキー・ミール」とは、旧ソ連領の一部だった地域を対象とする領土拡張と精神的な連帯を結びつける構想だそうです。現代版「十字軍」を気取っております。

「宗教」とは、最も人々の幸せや平和や安心を目指すもののなのに、個人的な主張で、宗教を利用してほしくないと思います。また、今のミャンマーのように、本来、その国の住民を守るはずの軍隊が、その国民を虐殺してもいます。

ロシア正教会も、ロシア軍も、ミャンマー軍も一人ひとり、本当は「これでいいのか」と葛藤して、押し殺さなくてはいいのかもしれない。誰かトップに進言して欲しいと思っているやも。そういう私も、誰かこの戦争を止めてほしいと願うことしかできないです。誰かとは、仏・神とすることは、浄土真宗の「他力本願」とは全く異なることだけは確かです。

三月二日、「世界宗教者平和会議」日本委員会は「ウクライナ情勢に対する声明」を出しました。私たち浄土真宗本願寺派も三月四日、「宗会」が「決議文」、八日、「総長」が「声明文」、「執行長」が「談話」を発表しました。

ロシア軍のウクライナ侵攻を非難し、戦争の早期終結を願う決議

二〇二二年二月二四日、ロシア軍はウクライナに侵攻した。いかなる理由があれ、武力で他国の主権を蹂躪するこの蛮行を強く非難する。また、これに協力したベラルーシも、同様に強く非難されるべきである。

さらにプーチン大統領は、核兵器の使用も示唆した。許しがたい言動である。爆撃を逃れ、地下に避難した子どもたちの声を我々は聞いた。「死にたくない。戦争が早く終わって欲しい」と。

一方で、この武力行使を非難し、戦争に反対する声が全世界に広がっている。ロシアでも、強権的な弾圧にもかかわらず、多くの人々が勇

気ある声をあげている。我々は、これら勇気あ

る人々に心から連帯をする。我々は、被爆国の市民として、生命を慈しむ仏教徒として、世の安穩を願う念仏者として、この武力侵攻を非難し、自己正當化をくりかえす権力者の愚かさを批判し、歴史をかえりみつ

つ、この戦争の一刻も早い終結を願う。
仏暦二五五五（二〇二二）年三月四日
浄土真宗本願寺派 宗会

ロシア連邦によるウクライナ侵攻に対する声明

二〇二二年二月二四日、ロシア連邦がウクライナへの軍事侵攻に踏み切りました。

ウクライナの各都市では子どもを含めた多くの民間人が犠牲になり、加えて百万人を超える国民が難民として避難を余儀なくされていると報道されています。

私たち浄土真宗本願寺派は、いかなる理由があろうとも、人命を軽視し、武力で一方的に現状を変更しようとする暴力的な行為に抗議し強く反対の意を表します。

このたびのウクライナへの侵攻だけでなく、世界各地でテロや武力紛争が続いている現実があります。あらためて、あらゆる場での暴力の行使を非難するとともに、一刻も早く対話による平和的な解決がなされ、ウクライナに再び平和が訪れますよう願うものです。

思想文化や制度による厳しい対立や相互の排除をのり越えて、自他共に心豊かに生きていくよう、共に努力する先にこそ、恒久的な平和を実現する道が切り拓かれてくるものと確信い

たします。

二〇二二（令和四）年三月八日

浄土真宗本願寺派総長 石上智康

執行長談話

このたび第三二〇回定期宗会において、浄土真宗本願寺派宗会による「ロシア軍のウクライナ侵攻を非難し、戦争の早期終結を願う決議」が採択されました。

私たちは『大無量寿経』にとかれる「兵戈無用」、また親鸞聖人がお示しくださった「世のなか安穩なれ」のもと、先の大戦の反省から非戦平和への願いを国内外に発信してまいりました。

お念仏をいただき、仏法の智慧を依りどころとする念仏者としてあらためて平和を希求せずにはいられません。

ロシア軍の侵攻によって双方に多くの死傷者がでていることを悼み、一日も早く武力行使が終結して安穩な日々がおとずれるよう願っております。

二〇二二（令和四）年三月八日

本願寺宗務長 武田昭英

阿闍世に進言した耆婆が居たように、プーチン大統領に進言できる人が居るといいのですが。どうか、キリル総主教、ご自身の野望を捨てて、聖職者としての信条を思い起こしていただきたいと思います。そのためにも、まず、同じ聖教の方々は、批判するだけでなく、キリル師を取り込んでいただきたいと思います。

稱讃寺 春季彼岸会

二〇二三年三月二〇日(日)
午後二時〜午後三時半

お天気にめぐまれて、春のお彼岸を迎えることができました。
明日二十一日で、「蔓延防止等重点措置」が解除されるのですが、皆さんのおこ



ころは、晴れやかになれないことであろうかと察することであります。
西方のお浄土を望むと言っても、この世界の西方を覗くと、ウクライナの状況を見ればおれません。
誰もが早く戦いが終わってほしいと願っているのですが、国連もNATOもアメリカもEU諸国も中国も誰も止めることがで

このお彼岸で我が心を「是」とせず、阿彌陀さまのお心の本願他力がはたらいていることを味わいたいものです



きず、歯がゆく感じておられることでしょう。「恨みは恨みしか生まない」と言われ、報復することは良くないと思っても、今、非道にも殺されていく現実を思うと、虚しく響きます。武力には武力でしか解決しないのでしょうか？いや、解決したようにみえて、永遠にくすぶっているだけで、また噴き出すのが、私たちのころなのでしょう。
世界が平和であり、差別・偏見のない社会を築くために、人類は倫理道徳は発達してきていると思っていました。
お経には「五濁増」と説かれています。どれだけ人類・社会が発達しても、私たちのころは、益々、濁っていくと説かれています。

現世利益和讃について

五首目

なもあみだぶつ

南無阿弥陀仏をとなふれば

ぼんのう たいしゃくききよう

梵王・帝釈帰敬す

しよてんぜんじん

諸天善神ことごとく

よるひるつねにまもるなり

【現代語訳】

名号のおいわれを聞信し、南無阿弥陀仏を称える人は、梵天王や帝釈天などの仏教を守護する神々から敬われる。そして梵天王や帝釈天の眷属の神々は、どの神々もみな昼夜つねに護つてくださるのである。

(『聖典セミナー浄土和讃』黒田覚忍師訳)

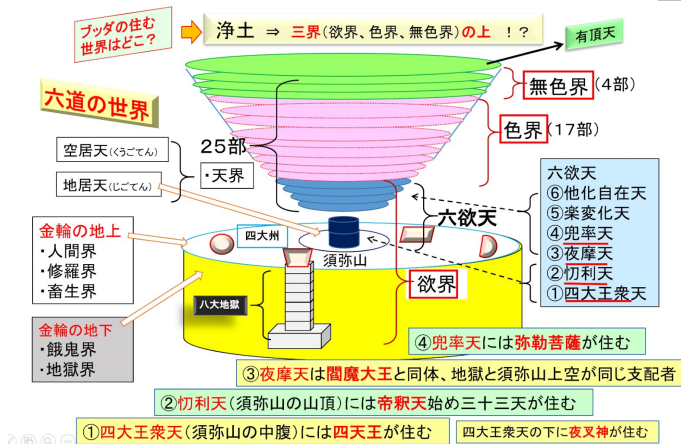
【語釈】

梵王・梵天 仏教の天部の一尊。古代インドの神ブラフマーが仏教に取り入れられたもので、十二天に含まれる。ヒンドゥー教

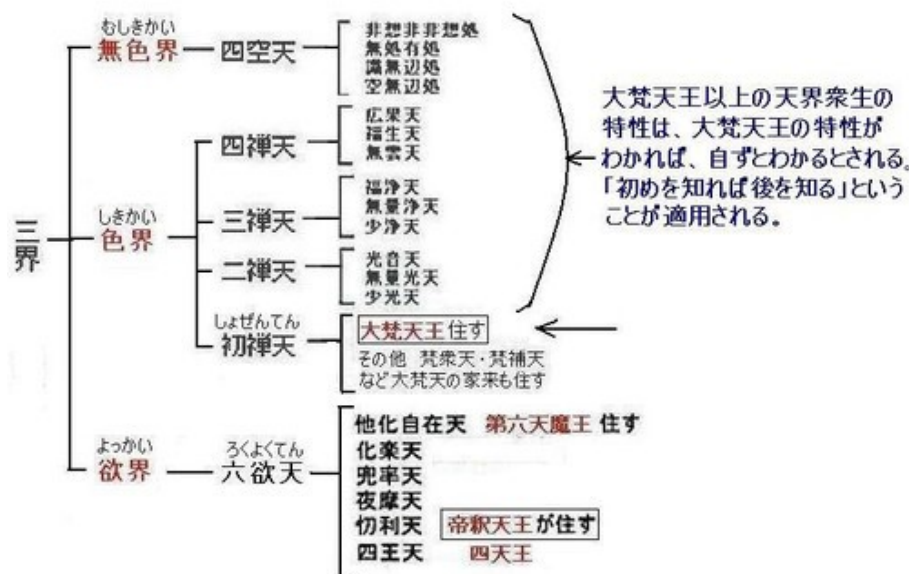
では創造神ブラフマーはヴィシュヌ(維持神)、シヴァ(破壊神)と共に三大神の一人に数えられた。

バラモン教の神が仏教に取り入れられ、仏法の守護神とされ、梵天と称されるようになった。なお、釈迦牟尼が悟りを開いた後その悟りを広めることをためらったが、その悟りを広めるよう勧めたのが梵天とされこの伝説は梵天勧請(ぼんてんかんじよう)と称される。

帝釈天 仏教の守護神である天部の一つ。バラモン教・ヒンドゥー教・ゾロアスター教の武神(天帝)でヒッタイト条文にも見られるイン



られるインドラと同一の神。妻は阿修羅の娘であるシャチー(舎脂) 釋提桓因 (しゃくたいこん)・因陀羅 (いんだら) とも言う。(ウィキペディアより)



『リグヴェエダ』(インド最古の宗教詩集紀元前一二〇〇年頃?)でも大いに尊敬された神。地上の最高所、須弥山上にある三十三神(三十三天、忉利天)の中央に在すと信じられ、釈尊の誕生に際して現れ守護したとされる。また、ジャータカ(釈尊の前生物語)の中でも最も活躍する神である(『三帖和讃ノート』豊原大成師)

諸天善神 親鸞聖人は『教行信証』化巻の外教
釈の中、『大方等大集経』の「諸天王護持品」を
引用されて、「娑婆世界の主、大梵天王」とか

「娑婆世界の主、大梵天王および憍尸迦帝釈
(帝釈天)とか「善いかな善いかな、妙丈夫
(梵天王・帝釈天)」と説かれております。

梵天王・帝釈天は娑婆世界の主であり、『仏
説無量寿経』に説かれる「天・人」の世界の主と
表現されています。

仏教では、天部の世界も「六道」の一つで、そ
の六道を「欲界」「色界」「無色界」の三界に分け
て、それぞれに何億という、所謂「神さま」を諸
天善神と呼ばれています。

これらの諸天善神は、お釈迦さまが仏教を
説かれる(悟りを得る)前のバラモン教やゾロ
アスター教等の神々でもあり、敷いては、日本
に仏教が伝わってからは、日本の八百万の神々
も含まれます。

お釈迦さまがお悟りを得て、人々に説かれる
ことを躊躇しておられた時、「梵天勧請」と
言って、梵天王・帝釈天が、仏法を広めて欲し
いと懇願したとのこと。

仏教は、一神教とは異なり、全ての教えを包
み込み、差別・偏見をしない宗教です。(私たち
の現実の世界では、同じ仏教でも争いがあり、
ミャンマーのロヒンギャの迫害等もあります)

それらの神々は、あくまでも娑婆世界の方で
あり、諸仏・諸菩薩とは異なります。

先の親鸞聖人が「外教釈」で引用された仏典

には、詳細に諸天善神のお名前が記されてお
ります。

「三界」に分けて列挙してみます。(三頁参照)
〈欲界〉(天界の下段(六欲天)から地獄まで)
(六欲天)

④四大王衆天(須弥山の中腹)

四天王が住み、それぞれの配下に夜叉神が居る。

・東方 持国天

・南方 增長天

・西方 広目天

・北方 多聞天(毘沙門天)

⑤忉利天(須弥山の山頂)ここまでが地居天

帝釈天が住む殊勝殿のある中央の善見城をめぐって
四方にそれぞれ八つの天がある。(帝釈天十三十二天)

⑥夜摩天(閻魔大王と団体)ここから空居天

⑦兜率天(釈尊が修行した所・現在弥勒菩薩が修行中)

⑧樂變化天(自ら楽しい境遇を造り楽しんでいる)

⑨他化自在天(他の下位の天で楽しみをなすのを見て
自分も楽しむことができる)・第六天魔王(住す)

(十二神将) 官毘羅大将(金比羅)・跋折羅大将(金剛力士)・迷企羅
大将・安底羅大将・頻伽羅大将・珊底羅大将・因陀羅大将・波夷羅大
将・摩虎羅大将・真達羅大将・招住羅大将・毘羯羅大将

(十二天) 帝釈天・火天・焰摩天・羅刹天・水天・風天・毘沙門天・伊舍
那天・梵天・地天・白天・月天

(八部衆) 天龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦楼羅・緊那羅・摩睺羅伽
(二十八部衆) 那羅延堅固・難陀龍王・摩睺羅・緊那羅・迦楼羅・乾闥
婆・毘舍闍・散支大将・滿善車鉢・摩尼跋陀羅・毘沙門天・提頭頼吒王・
婆伽仙・大弁功德王・帝釈天王・大梵天王・毘樓勒叉・毘樓博叉・薩遮
摩和羅・五部淨居・金色孔雀王・神母女・金比羅・畢婆伽羅・阿修羅・伊
鉢羅・婆伽羅龍王・密遮金剛士

(他) 弁財天・大黒天・吉祥天・韋駄天・摩利支天・歡喜天・金剛力士・
鬼子母神

〈色界〉十七部

①初禪 大梵天・梵輔天・梵衆天

②二禪 光音天・無量光天・少光天

③三禪 遍照天・無量淨天・少淨天

④四禪(五淨居天) 色究竟天・善見天・善現天・無熱天・
無煩天(寿命が尽きればそのまま仏に成る)・広果天・
無想天・福生天・無雲天

〈無色界〉四部

①空無辺処 第一天 定を抑える一切の想を滅し、空間
が無限大であると思惟する定。

②識無辺処 第二天 識は無限大であると思惟する定。

③無所有処 第三天 何物も無しと思惟する定。

④非想非非想処 最高の点 何物も無しと思惟する定
を超えて極めて味劣な想のみが存在する定。有におけ
る天界の最上部であるため、有頂天とも呼ぶ。

三界を超えたところが、仏の浄土(菩薩の含
まれる)を指します。また、密教では、如来の
使者としてバラモン教・ヒンドウ教の神々の
「明王」が仏・菩薩の下位に座します。

神様の区分で、重複したりしていますが、数
限らない様々な神様が仏法を敬い、護持して
おられることがお経には説かれています。

ウクライナ情勢のことと親鸞聖人の時代の天
人観を、ふと考えて見ました。娑婆世界の主が
大梵天・帝釈天なら、大梵天は、天皇・上皇で
あり、帝釈天は鎌倉殿(幕府)に擬えると思ひ
ました。まさにプーチン大統領は大梵天・帝釈
天なのかもしれません。仏教に出遇った大梵
天・帝釈天は仏教を護持し、慈悲をもつて人々
を救おうとしておられます。

「南無阿弥陀仏を称ふれば」とは、自らお念
仏することもあります。お念仏が聞えて
くる、阿弥陀さまのご本願に出遇えたことを
言うのではないのでしょうか。世界の指導者の
方々が、ご本願に出遇って頂けたらと。

親鸞聖人御誕生八五〇年

立教開宗八〇〇年

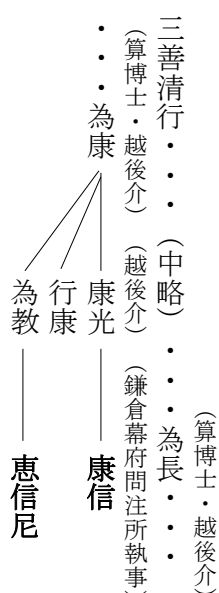
慶讃法要企画

親鸞聖人を知ろう

⑧三善康信―朝廷の実力者―

系図（左）上では恵信尼さまの従兄弟に当たる三善康信は、朝廷の蔵人所（くろうどころ）の水納（すいのう）という職にありました。蔵人所というのは、天皇の秘書官の役所です。上皇が実質的に政治を執る院政ならば、その上皇の秘書官です。

九条兼実や鎌倉幕府を開いた源頼朝と親しく、また彼らと競った後白河法皇（上皇）の蔵人頭（くろうどのかみ）。蔵人所の長官。秘書官（長）に、吉田経房という貴族がいました。彼は法皇のよき相談相手として、貴族や平清盛あるいは頼朝を翻弄し、頼朝をして「日本一の大天狗」と呼ばしめました。その経房の秘書課長だったのが三善康信でした。彼は蔵人所の出納という職にあり、位は五位だったので五位出納尾（ごいのすいのう）と通称されました。もともと「五位出納」は、法皇と蔵人頭の意を受けて、政界対策に走り回る職でした。行政や法律に詳しく、情報を巧みに取る能力がある人物で



なければこの職は務まりません。上皇（法皇）蔵人頭―五位出納が平安時代から鎌倉時代にかけての朝廷の権力の中枢でした。恵信尼さまの従兄弟康信は、なんとこの五位出納だったのです。

⑨三善康信―幕府の実力者―

寿永二年（一一八三）、三善康信は現職のまま、鎌倉へ送られました。翌年、新たに作られた問注所（もんちゅうじょ）の執事となりました。現代でいえば最高裁判官ともいえるべき重職です。つまり康信は後白河法皇と源頼朝の話し合いにより、朝廷と幕府の協力関係を進める実質的な責任者として、鎌倉で働くことになったのです。

現代において、長い間、朝廷と幕府は対立していたとみられてきました。鎌倉時代は幕府が朝廷を圧迫していく過程と見られてきました。しかし現在ではそのような見方は否定されています。むしろ朝廷と幕府は、特に鎌倉時代の初期においては、協力関係にあったのだと見られています。高校・中学の教科書なども、その見方の上で作成されています。その協力関係の象徴が三善康信だったのです。では、なぜ頼朝が康信を受け入れたのか。なぜ頼朝のためにも働いてくれると信用することができたのか。それは康信が頼朝の乳人（めのと）の一人の甥だったからです。母の姉が頼朝の乳母（めのと）で

⑩三善康信―源頼朝の乳母の甥―

頼朝には三組の乳人がいました。「乳人」はお乳を飲ませる乳母（めのと）である女性だけでなく、その夫も指します。夫婦はその家族・近い親族で団結して、その赤ちゃんを一生守るのが当時の習慣でした。ですから、逆に、頼朝はその三人の乳人と親族を絶対的に信頼していました。康信は、頼朝に会う前から心情的に結ばれていたのです。

また康信の弟の康清も、康信と一緒に鎌倉に下つてきて頼朝に仕えました。幕府の中では公事奉行（くじぶぎょう）という重職についています。康清の領地は筑波山の西側に広がっていました。

康信が亡くなったのは承久三年（一二二一）のことですから、親鸞聖人と恵信尼さま一家が関東での生活を始めてから、すでに七年経っていました。

私たちは、親鸞聖人一家は誰も知り合いがない関東の荒野へ流れ着いたと思ってきました。しかし、そうではなかったのです。恵信尼さまの従兄弟は鎌倉幕府の重鎮だったのです。お互いに連絡を取り合ったか取り合わなかったかは別に、このようなことは忘れるべきではないでしょう。

『鎌倉殿の十三人』の初回か二回目に三善康信（俳優 小林隆さん）が登場しました。康信は月に三回頼朝に京都の情報を伝えており、その時の場面では、少々早とちり、先走った情報を伝えたらしく、北条義時らを困惑させたみたいで、す。しかし、これからは問注所の長官として活躍していきます。

「玉日姫」 は実在した のか？



〈本の紹介〉

『親鸞の妻 玉日は実在したのか？—父とされる関白九条兼実の研究を軸に—』

今井雅晴氏 著

京都や関東には、「親鸞聖人の妻は関白・九条兼実の娘、玉日という女性であった」という話が伝えられてきた。一九二一（大正一〇）年に恵信尼文書が本願寺蔵から発見され、聖人の妻として「玉日」よりも「恵信尼」の注目度が高まった。

それでも「玉日」という伝承は今日まで大切にされ、近年では遺骨を発掘するなどという調査も行われている。

本書は歴史学の立場から、「玉日」という人物は実在したのかという問題を、二つの視点から明らかにしている。

一つ目は、「玉日」に関する史料が信用できるかという点である。実は「玉日」に関する史料は、鎌倉時代、その後の南北朝時代にも見つからず、室町時代の『親鸞聖人御因縁』『親鸞聖人御因縁秘伝鈔』に出てくるのが最初であるつまり「玉日」の名は室町時代に始めて登場するのである。

二つ目は、当時の社会背景や常識から考えて可能性のある話であるか？という点である。九条兼実の娘は任子のみとされるが、もしも「玉日」が撰関家である九条兼実の娘であったならば、どうだろうか。著者は、自分の娘を天皇の后とすることに努力をするはずだという。皇子の誕生によって権力をものにするためである。実際に兼実は一人娘・任子を後鳥羽天皇の后にするために奔走し、中宮にすることに成功したしかし生まれたのは皇女で、このことから九条家は傾いていく。著者は「もし兼実に任子以外の娘がいたならば間違いなく天皇の皇后候補として育て、実際に後宮に入れたでしょう」（五十八頁）と述べる。九条家にとつて娘が、貴族社会でも比叡山でも、出世が見込めず無位無官の親鸞聖人と結婚させるメリットは何もないのである。つまり当時の常識的に考えて、親鸞聖人と兼実の娘が結婚することはありえない話だと、著者は論ずる。

しかし著者は、「玉日」への尊崇の念を否定するのではない。史実の究明とは別に、「玉日」伝承を大切に受け継いできた人々の気持ちは尊重されるべきであると言う。

著者も引用し称賛されている、大谷嬉子さまのお言葉。「玉日という美しいひびきを持った名は、聖人の内室の代名詞のつもりで、恵信尼公のおもかげを重ねて使ったかどうかと思う。聖人の内室を敬慕する人の気持ちにかわりないのだから」（二十二頁）というのが、「玉日」伝承に対する最も適した態度ではなからうか。

評者…橋本順正氏

（浄土真宗本願寺派総合研究所研究助手）

恵信尼さまは

三善家の出身ではない？

今でも浄土真宗のお寺さんの中には「玉日講」として、恵信尼さまの掛け軸を掛けて、ご遺状や縁起を読んで法要をする、女の人の集まりが行われているそうです。

『鎌倉殿の十三人』が放送されていることもあり、今井雅晴氏の説から恵信尼さまのお父さんが三善為教であることを前提にこのシリーズを掲載しております。

しかし、『歴史のなかに見る 親鸞』（平雅行氏）では、「恵信尼はその出自は不明ながら越後の在庁官人の娘と推測しました。私は、三善為教の娘説は採用しません。」と著わしておられます。

今井氏も平氏も玉日が九条兼実の娘ではないことは明らかとしています。

また善鸞は親鸞聖人の長男であります、『親鸞聖人御消息』の中には、善鸞は恵信尼さまのことを「継母」と「壬生の女房」に言っていることが書かれてあります。平氏は、この「壬生の女房」を善鸞の実母とみておられるようです。

私は、『恵信尼消息』からは、恵信尼さまは京都在住で、京都で親鸞聖人と夫婦になり、流罪になったとき、壬生の女房に生まれたばかりの善鸞を預けたのではと思うのですが。恵信尼さまが三善家の出であれば、関東に赴いた理由も分かるのですが、平氏の言う三善家の関係者は既に見えない越後に恵信尼さまが行かれるはずはないことが気になります。三善氏に関わる豪族がいたのではないのでしょうか。

稱讃寺 行事予定

二〇二二年 四月の行事予定



えんぎ
縁起
縁によて咲き
縁によて散る

二〇二二年「心のともしび」四月カレンダーより

三日(日) 日曜礼拝 休座
六日(水) のんのん法話会 午後二時
兼 灌仏会(花まつり)
一〇日(日) 日曜礼拝 午前一〇時
一六日(土) のんのん法話会 午後二時
一七日(日) 日曜礼拝 午前一〇時
二四日(日) 日曜礼拝 午前一〇時
二六日(火) のんのん法話会 午前二時
※朝のおつとめ 午前七時
※夕のおつとめ 午後六時

「ウクライナ緊急支援募金」募集について

本願寺派では、ロシアの軍事侵攻により避難生活を余儀なくされているウクライナの人々を支援することを目的に、緊急に「たすけあい運動募金」において標記募金の募集を開始いたしました。つきましては、募金にご協力いただきますよう、下記の通りお願い申し上げます。

合掌

記

1. 募金の名称 浄土真宗本願寺派 たすけあい運動募金
「ウクライナ緊急支援募金」

2. 受付口座番号

〈郵便振替〉 〇１０００－４－６９９５７
加入者名 たすけあい募金

〈銀行振込〉 銀行 ゆうちょ銀行
店名 一〇九（イチゼロキュウ）店
番号 当座 〇〇６９９５７
名義 たすけあい募金

※通信欄に「ウクライナ緊急支援」とご記入ください。

編集後記（愚案）

三月二三日、ウクライナのゼレンスキー大統領の国会演説が行われました。

日本へは人道的経済制裁支援と同時に「復興」に向けての支援をおっしゃっておりました。そして、世界の新たな安全保障体制を確立できるよう日本がリーダーシップを取って欲しいと強調されました。

近々のウクライナ情勢では、ロシアはウクライナ東部を配下にすることで、停戦の意向があるとかないとか。

一刻も早く、この戦争が終わって欲しいのですが、プーチン政権は残り、ゼレンスキー大統領が望む世界平和の新たなツールの構築は成されずじまいかもしれません。

一僧侶として不謹慎かと思いますが、プツンしたプーチンを誰かプツンして欲しい。

人間の歴史は、人権・自由・平和を求めながら、その手段として戦争を繰り返しています。どうか国の首となる方は転輪聖王のごとく振る舞って欲しいと思います。